

地方のポテンシャルを引き出すテレワークやW i - F i等の活用に関する研究会

W i - F i整備推進ワーキンググループ（第6回）

### 議事概要

#### 1. 日時

平成27年3月10日（火）13時30分～15時30分

#### 2. 場所

総務省第1特別会議室

#### 3. 出席者

##### （1）構成員

三友主査、石井構成員、岩崎構成員、大内構成員、加藤構成員、倉谷構成員、越塚構成員、東代理（佐々木構成員の代理）、澤村構成員、白木構成員、関構成員、谷口構成員、松村代理（千葉構成員の代理）、牧田構成員、三次構成員、南川構成員、和食構成員

##### （2）オブザーバー

観光庁（外客受入参事官室付 後藤課長補佐）、内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室（濱谷参事官補佐）、無線LANビジネス推進連絡会（小林会長）、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（立石副会長）、一般財団法人全国地域情報化推進協会（企画部 伴野担当部長）、一般財団法人マルチメディア振興センター（情報通信研究部 三澤主席研究員）

##### （3）総務省

南政策統括官、池永大臣官房審議官、岡崎情報流通振興課長、今川地域通信振興課長、河内データ通信課長、磯地方情報化推進室長、片桐地域情報通信振興支援官、荒川地域通信振興課課長補佐

##### （4）ゲストスピーカー

阿波村様（株式会社野村総合研究所）

#### 4. 議題

- (1) 構成員等からのプレゼンテーション
- (2) Wi-Fi 整備推進 WG 最終取りまとめ（案）について

#### 5. 議事概要

- (1) 構成員等からのプレゼンテーション

無線 LAN ビジネス推進連絡会、マルチメディア振興センター、全国地域情報化推進協会より資料 6-1、資料 6-2、資料 6-3 に基づき説明が行われた。

- (2) 意見交換

上記のプレゼンテーションに対して、構成員等から質問や意見があった。主な意見は以下のとおり。

##### 【三友主査】

- 中国人旅行者が非常に多く日本を訪れているが、彼らが Wi-Fi を使うときの用途は何か。

##### 【小林オブザーバー】

- SNS 目的の利用や、例えばお土産を選ぶために中国にいる家族等と写真での確認を行っていると聞く。その他、インターネット上のサービスを利用した通話等、色々な目的で利用されている。

##### 【三澤オブザーバー】

- 韓国観光公社による Wi-Fi 利用調査を確認したところ、中国人は圧倒的に SNS 利用が多かった。また、利用時間についても中国人が最も長く、日本人の 2 倍近く Wi-Fi を利用していることが分かっている。

##### 【越塚構成員】

- 今後の取りまとめに向けて、Wi-Fi だけの取組ではなく、オリンピックも見据えて、サイネージや測位情報等と Wi-Fi を組み合わせた活用手法や、それらの機器間での認証の相互運用について検討を行う必要がある。

##### 【石井構成員】

- 人の集まる場所に Wi-Fi の需要は自然発生するだろうが、人のいないところに人を呼び込めるような Wi-Fi の整備が重要である。海外の事例で、Wi-Fi 環境を整備することで人が集まってきたような事例はあるか。

**【三澤オブザーバー】**

- 韓国において、地方への Wi-Fi 環境の整備を進めているところであるが、まだ「Wi-Fi 環境を整備したことで地方に人が集まった」という事例は見受けられないので、今後も引き続き調査を続けていく。

**【白木構成員】**

- Wi-Fi 環境のおかげで観光客が増えたと断言することは難しいが、スタンプラリー等の取組への参加者も多く、回遊性の向上は目に見える部分であるので、そういった点は今後も強化していきたい。

**(3) 事務局から説明**

事務局及び野村総合研究所より資料 6-4、参考 6-2、参考 6-3 に基づき、Wi-Fi 整備推進 WG 最終取りまとめ（案）について説明が行われた。

**(4) 意見交換**

事務局等からの説明に対して、構成員等から質問や意見があった。主な意見は以下のとおり。

**【三次構成員】**

- 整備状況調査について、宿泊施設の整備状況は 30% ということで必ずしも高くはないが、これは無料で利用できる Wi-Fi の普及率ということか。

**【阿波村様】**

- 宿泊施設については、ロビー等の一部で利用可能な施設も含め、有料・無料を問わず集計した普及率である。なお、整備している施設のうち 300 施設に聞いたところ、その 90% 以上が無料で使える Wi-Fi サービスであった。

**【三次構成員】**

- 接続の安全性やビジネスモデルを考慮すると、適正な対価を求めることもいいのではないかと考えている。現状、利用者が何のために認証しているのか分からずに認証して

いるということも起こっており、料金を支払った人には、全国の宿泊施設が同じ認証システムで接続できるような、公共 Wi-Fi というモデルもあっていいのではないかと。

**【加藤構成員】**

- 経済効果について、B/C（費用対効果）を示してほしい。自治体の財政担当へは、設備の投資費、運用経費に対して、どれだけの効果があるのかという説明が必要となる。また、周知・広報、有料・無料も推計のプロセスに入れてはどうか。

**【岩崎構成員】**

- 多くの自治体から「Wi-Fi 環境整備の費用対効果が分からない」という声がある中で、マクロ的な経済効果だけでなく、どれだけ時間の消費が増えたか、どれだけ行動に結びついたかといったもう少し小さい規模での効果を出した方が自治体でも理解が進むと思う。また、それを KPI にすべきである。

**【小林オブザーバー】**

- 経済波及効果については、とりあえずの数字が示されたということは初めてであり価値のあることなので、今後も今回の数字をたたき台として、議論を重ねて精度を上げていくことが重要である。
- 整備費用がどれくらいかかるかについて、明治神宮に基地局を整備する場合と観光案内所の屋内に整備する場合では、係る経費は異なる。1箇所あたりの経費を一律 150 万円に設定するのは乱暴である。専門家に精査していただく必要があるのではないかと。

**【谷口構成員】**

- 例えば、ソフトバンクでは、全国 40 万強のアクセスポイントを有し、その運用基盤や認証基盤を確立しており、アクセスポイント 1 台あたりの運用コストは非常に安い。なお、これは各キャリアに共通して言えることである。地方自治体が Wi-Fi 整備に取り組む上で、これらキャリアの基盤とうまく連携することで運用コストの抑制が可能になるかと思う。
- また、自治体が新規でアクセスポイントを整備する際に、その施設にキャリアの既存アクセスポイントがあれば連携できる可能性がある。具体的なオペレーションやルールについては今後の議論が必要である。

#### 【大内構成員】

- 携帯キャリアのアクセスポイントをどう活用していくかという議論について、Wi2 では TRAVEL JAPAN Wi-Fi に取り組んでいる。自治体が一から Wi-Fi 環境を整備して保守することは負担が大きいため、インフラ整備については、携帯キャリアのアセットを使ってもらい、自治体は訪日外国人の誘致方法の検討にリソースを寄せてもらうことができる。
- Wi-Fi 整備をやりたくてもやれていない自治体にとっては、アクセスポイントの整備費用よりも光回線のランニングコストが課題となっている。日本の観光資源の中で、訪日外国人が周遊してお金を落とすようにするために、まずは世界遺産への回線整備を進めていただきたい。また回線のない自治体においては、ビーコン等と連携し、デジタルデバイトの解消に努めていきたい。

#### 【牧田構成員】

- 大阪でも Wi-Fi 整備に取り組んでいる。まだ導入効果を感じられるところまでに至っていないが、アクセスポイントの数が圧倒的に少ないためだと思われる。アクセスポイントの数を増やすためには、自治体だけでなく民間による協力が必要である。民間による導入を促すためには、Wi-Fi 環境の整備がどう集客に結びつくのか、費用対効果を分かりやすく、システム化していかなければならない。そういう観点からも、大阪では「OSAKA ENJOY RALLY」サービスで、Wi-Fi がどこで利用できるのかを紹介して集客に結びつけて取り組んでいる。
- Wi-Fi 整備のためのコスト抑制については、携帯キャリアにインフラ整備部分を頑張ってもらった上で、自治体は集客に専念できれば、効率的に事業を進めることができる。

#### 【倉谷構成員】

- 白木構成員に質問。整備した Wi-Fi 環境でどんな情報を載せるかを検討する上で、博多どんたくにおいても訪日外国人が増大している実感はあるか。

#### 【白木構成員】

- 祭りやイベントごとの訪日外国人の詳細な数までは把握していないが、上海からのクルーズの寄港などもあり、皮膚感覚として、中国人や韓国人が多くなっている感じはある。

最後に、事務局から今後の事務連絡を行い、閉会した。

以上